

カエルのえさ

がいけんきゅう



のりもむら はる み

1. はじめに

ひろしまでつかまえた「ぬまがえる」をそだてることになりました。

2. しらべたいこと

かえるがなにをたべ

るのかしらべる。

3. しらべがた

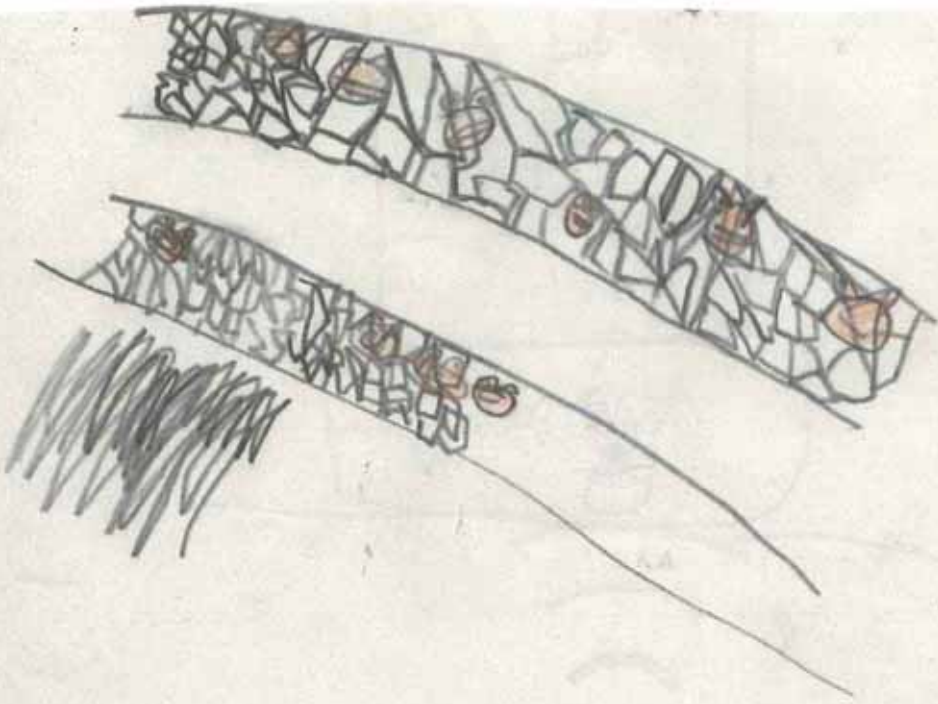
いろいろなむしをつかまえてあげてみる。  
むしいがいもあげてみる。

むしはいきているのを  
そのままいれる。  
むしは、ちいさ  
くちぎってフックヤ  
いとにくっつけてうご  
くしてあげる。

#### 4. よそう

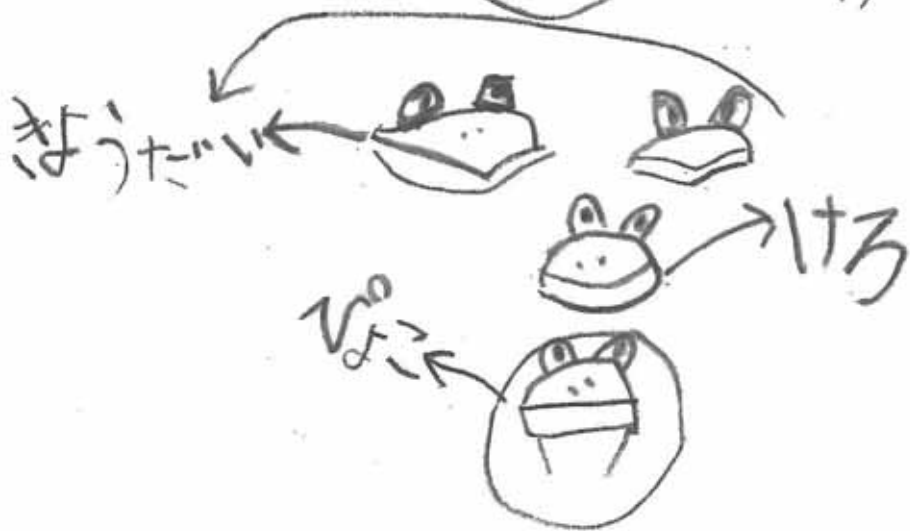
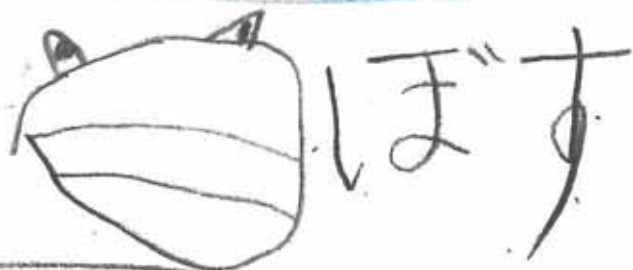
かえるはむしをた  
べるとおもう。にくは  
たべないとおもう。

かえりなき 🐸



かえりなきでかえりなき  
つけました。(いひらしま)

つかまえた  
 フリカはかえるたちの  
 たんじょうび★

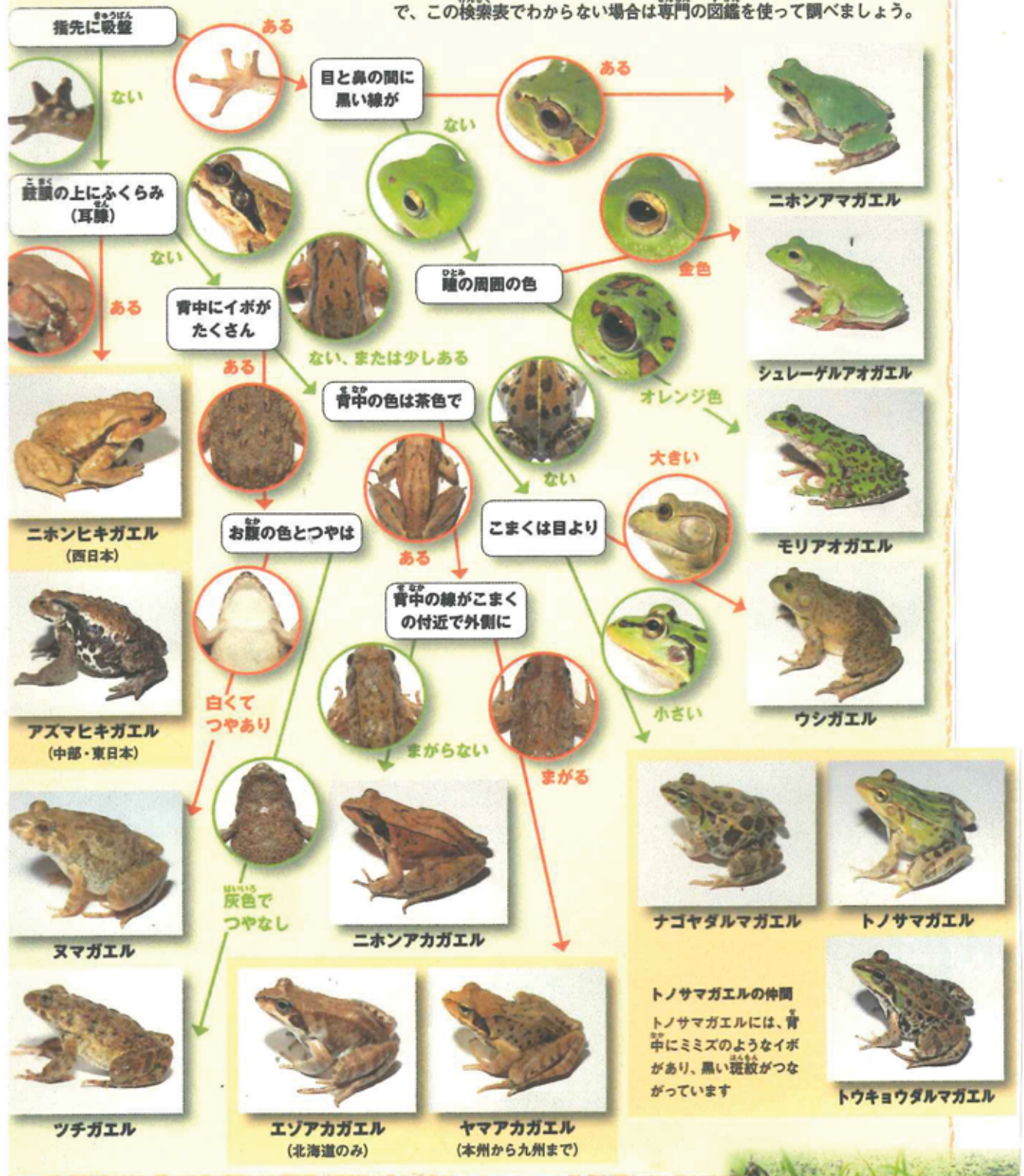


(けろのおおきさ)

ほす... 2せんちくらい  
 ひよこ... 1せんちくらい

# けんさく 田んぼのカエルの検索表

島を除く九州から北海道にすむカエル 14 種の見分け方です (南西諸島や対馬のカエルは 9 ページ参照)。なお、特徴があいまいなカエルもいるので、この検索表でわからない場合は専門の図鑑を使って調べましょう。



かえるのしやあしは、ヌマガエルにけっていい!

# えさのりいも

○...たべた

×...たべなかつた

○×... (たべたかえるとたべないかえるかいた)

1125

① くも → ○ (したをたがす)

② はむ → × (たべなかつた)

③ あり → ○

④ いやくといひ → ○

(てでのみこんでた)

⑤ ばったあか | ちん → ○

⑥ はおん \*

⑦ ささみ → ×

7126

⑧  $\text{あい} \rightarrow \text{あ}$  (たべたかえるとたべない  
かえるがいた)

⑨  $\text{はった} \rightarrow \text{あ}$  (かみついた=い)  $\times$   
たべなかつた=0)

7127

⑩  $\langle \text{あ} \rightarrow \text{あ} \rangle$

7128  
⑪  $\text{かめむし} \rightarrow \text{あ}$  (い、は、らして有)

⑫  $\text{はきみ} \rightarrow \text{あ}$

7129

⑬  $\text{きん} \rightarrow \text{あ}$  (ちび、う、い、い)

⑭  $\text{しん} \rightarrow \text{あ}$  (ちび、い、い、い)  
たべた=



8/5 ほうごういん → 0

8/5 ほうごういん → 0 ×  
（中）

8/9 えんご → 0

あさり → ×

8/10 ほうごういん → × (かみついで)  
ほうご → 0

のみにこんた (5 ぶん)

8/11 ほうごいん → 0

8112

さかいた → ×

はえ → ×

(しんた<sup>11</sup>)

8114

むか<sup>1</sup>で → ×

8115

は<sup>2</sup>あ<sup>3</sup>あ<sup>4</sup>し → 0

8116 いもあし → ×

8117 けろと <sup>10</sup>ま<sup>11</sup>か<sup>12</sup>え<sup>13</sup>の<sup>14</sup>

りあ<sup>1</sup>あ<sup>2</sup>あ<sup>3</sup>あ<sup>4</sup>あ<sup>5</sup>あ<sup>6</sup>あ<sup>7</sup>あ<sup>8</sup>あ<sup>9</sup>あ<sup>10</sup>あ<sup>11</sup>あ<sup>12</sup>あ<sup>13</sup>あ<sup>14</sup>あ<sup>15</sup>あ<sup>16</sup>あ<sup>17</sup>あ<sup>18</sup>あ<sup>19</sup>あ<sup>20</sup>あ<sup>21</sup>あ<sup>22</sup>あ<sup>23</sup>あ<sup>24</sup>あ<sup>25</sup>あ<sup>26</sup>あ<sup>27</sup>あ<sup>28</sup>あ<sup>29</sup>あ<sup>30</sup>あ<sup>31</sup>あ<sup>32</sup>あ<sup>33</sup>あ<sup>34</sup>あ<sup>35</sup>あ<sup>36</sup>あ<sup>37</sup>あ<sup>38</sup>あ<sup>39</sup>あ<sup>40</sup>あ<sup>41</sup>あ<sup>42</sup>あ<sup>43</sup>あ<sup>44</sup>あ<sup>45</sup>あ<sup>46</sup>あ<sup>47</sup>あ<sup>48</sup>あ<sup>49</sup>あ<sup>50</sup>あ<sup>51</sup>あ<sup>52</sup>あ<sup>53</sup>あ<sup>54</sup>あ<sup>55</sup>あ<sup>56</sup>あ<sup>57</sup>あ<sup>58</sup>あ<sup>59</sup>あ<sup>60</sup>あ<sup>61</sup>あ<sup>62</sup>あ<sup>63</sup>あ<sup>64</sup>あ<sup>65</sup>あ<sup>66</sup>あ<sup>67</sup>あ<sup>68</sup>あ<sup>69</sup>あ<sup>70</sup>あ<sup>71</sup>あ<sup>72</sup>あ<sup>73</sup>あ<sup>74</sup>あ<sup>75</sup>あ<sup>76</sup>あ<sup>77</sup>あ<sup>78</sup>あ<sup>79</sup>あ<sup>80</sup>あ<sup>81</sup>あ<sup>82</sup>あ<sup>83</sup>あ<sup>84</sup>あ<sup>85</sup>あ<sup>86</sup>あ<sup>87</sup>あ<sup>88</sup>あ<sup>89</sup>あ<sup>90</sup>あ<sup>91</sup>あ<sup>92</sup>あ<sup>93</sup>あ<sup>94</sup>あ<sup>95</sup>あ<sup>96</sup>あ<sup>97</sup>あ<sup>98</sup>あ<sup>99</sup>あ<sup>100</sup>

た<sup>0</sup>

8/19 カい → 〇

○ あおむし → ×

○ しむしのあやちゃん? × はまだした

8/20 たんごむしのあかいちゃん → 〇

たんごむし → ×

22. えび (なま) → 〇 ×

○ ごはん → ×

8/23

○ かいばんほ → 〇

とんてきに → 〇

8/27 しゃけ(なま) → × (かあだけ  
たべた)

キャベツ → × (かみのいたけとたべた)  
ソーセージ → ×

9/1 てんとうむし → × はまだした

おおきい

いもむし  
あおむし

こおろぎ  
ばった

ちゅう  
かかんぼ  
が

さかな

ちいさい

かたい

ばななむし  
はえ  
(しんじ)

はさみむし  
てんとうむし  
むかデ  
かめむし  
だんごむし

くも  
しゃくとりむし

ばったのあかちゃん  
だんごむしのあかちゃん  
けむしのあかちゃん

ぼうぶら

ちいさい

にく・さかな

(なま)

ぎゅうにく

ぎゅうひきにく

とりひきにく

ぶたひきにく

なまえび

ささみ

しゃけなま

(なまじやみ)

しらす

さくらえび

あさり

そーせいじ

はむ

いぬ・すかない・かひ

いぬ

ごぼん

きゃべつ

あかいたべた  
あおいたべた  
た。

5. けっか<sup>が</sup>とまとめ

、むしもたべたけたとど

に	く	や	し	ら	す	も	た	べ	た。
か	え	る	は	ち	よ	う	や	く	も、
だ	ん	ご	む	し	の	あ	が	ち	や
ん	な	ど	わ	ら	が	い	む	し	
が	あ	だ	っ	た。					
や	わ	ら	が	く	て	も	い	も	む
し	な	ど	は	お	お	き	す	ぎ	る

か	ら	た	べ	な	い。	み	つ		
い	た	け	ど、	お	お	き	す	ぎ	
て	た	べ	ら	れ	な	か	っ	た	よ
う	だ。								
む	し	の	が	が	で	も、	が	た	
す	ぎ	た	り	い	が	い	が	し	て
る	と	た	べ	な	か	っ	た。	た	



6. かんそう

はじめは、かえるの  
えさがとれるかしんぱ  
いだった。まいどちむ  
しをさがすのはたいへ  
んで、ぜんぜんとれな  
いひもあつたけど、たの

しがつた。かえるがえ  
たをたべるとさくちを  
はくばしてるところが  
かわいかった。



くふうしたところは、

けろがえさをたべると

さじぼすがたべそうに

なると、フオークでおさえ

てとらないようにしま

した。

かえるをかえてよか、

たです。

のねえか

きんぎょのひらけ



えんやリかた 

カエルは、うごいてい  
るものしかたべない。(おしなど)  
にくやしらすは、い'とやがーく  
つけておちないまうにしてあける。



### カエルは肉食で何でも食べる

カエルは、ミミズ、ダンゴムシ、バッタなど動くものなら何でも食べます。ただし、死んだ物は食べません。動かないとエサだと気づかないからです。子ガエルのうちは小さな昆虫などを食べ、大きくなるとミミズやトンボも食べます。口に入る大きさなら、何でも食べてしまうので、時には自分と同じ種類のカエルを食べてしまうこと(共食い)もあります。

ミミズを食べるトノサマガエル



トンボを食べるニホンアマガエル



ミミズを食べるアズマヒキガエル



ニホンアマガエルを食べるトウキョウダルマガエル

かえなにつき 🐸

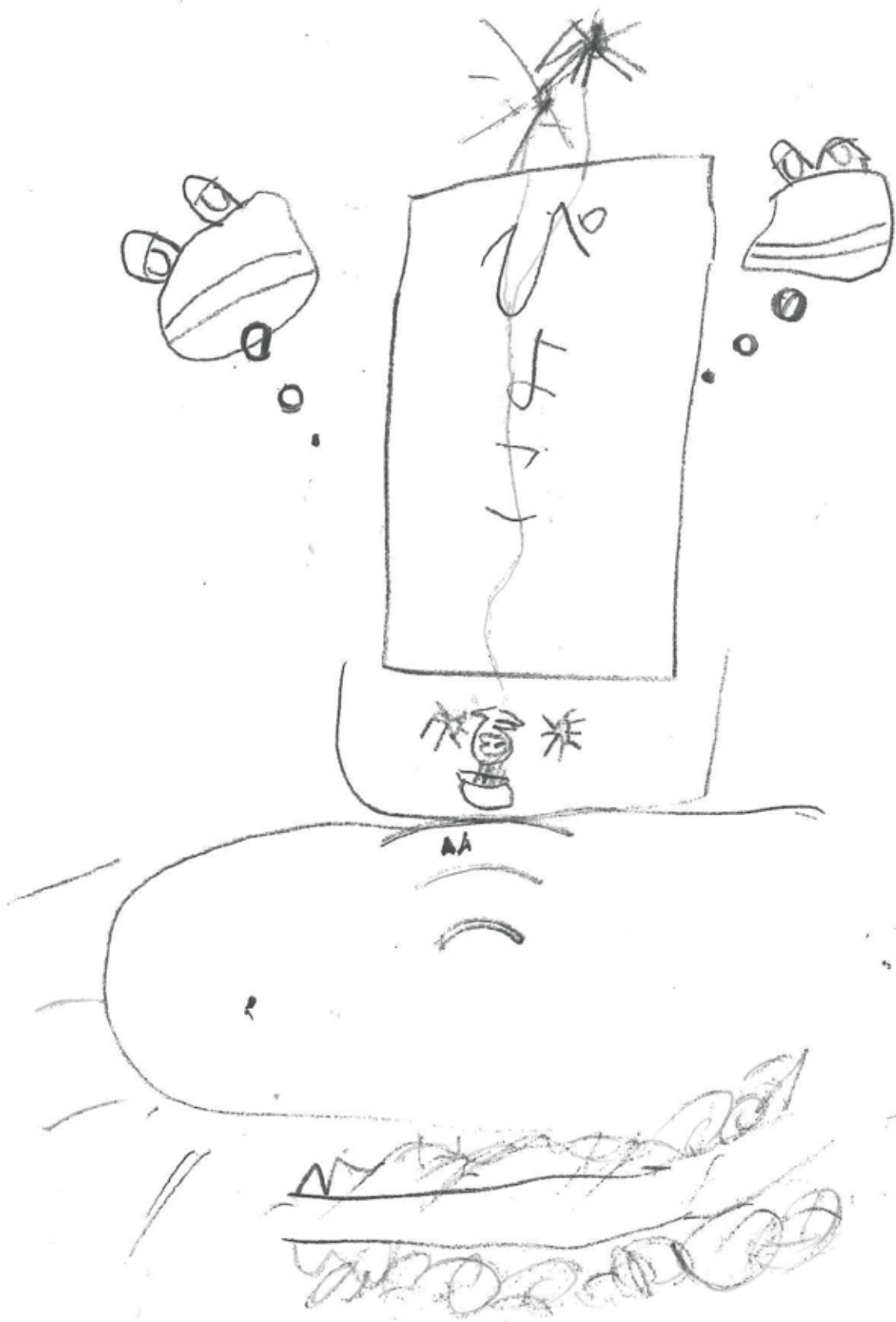
8/9

あとおきたらいちばんち  
いさいじョコカ<sup>ッ</sup>なかつた。  
たぶんボスカ<sup>ッ</sup>べたかもしあな  
いわけいそ<sup>ッ</sup>だった。

8/13

2ひきはあおさかにおいでい

きました。



かえなひつき 🐸

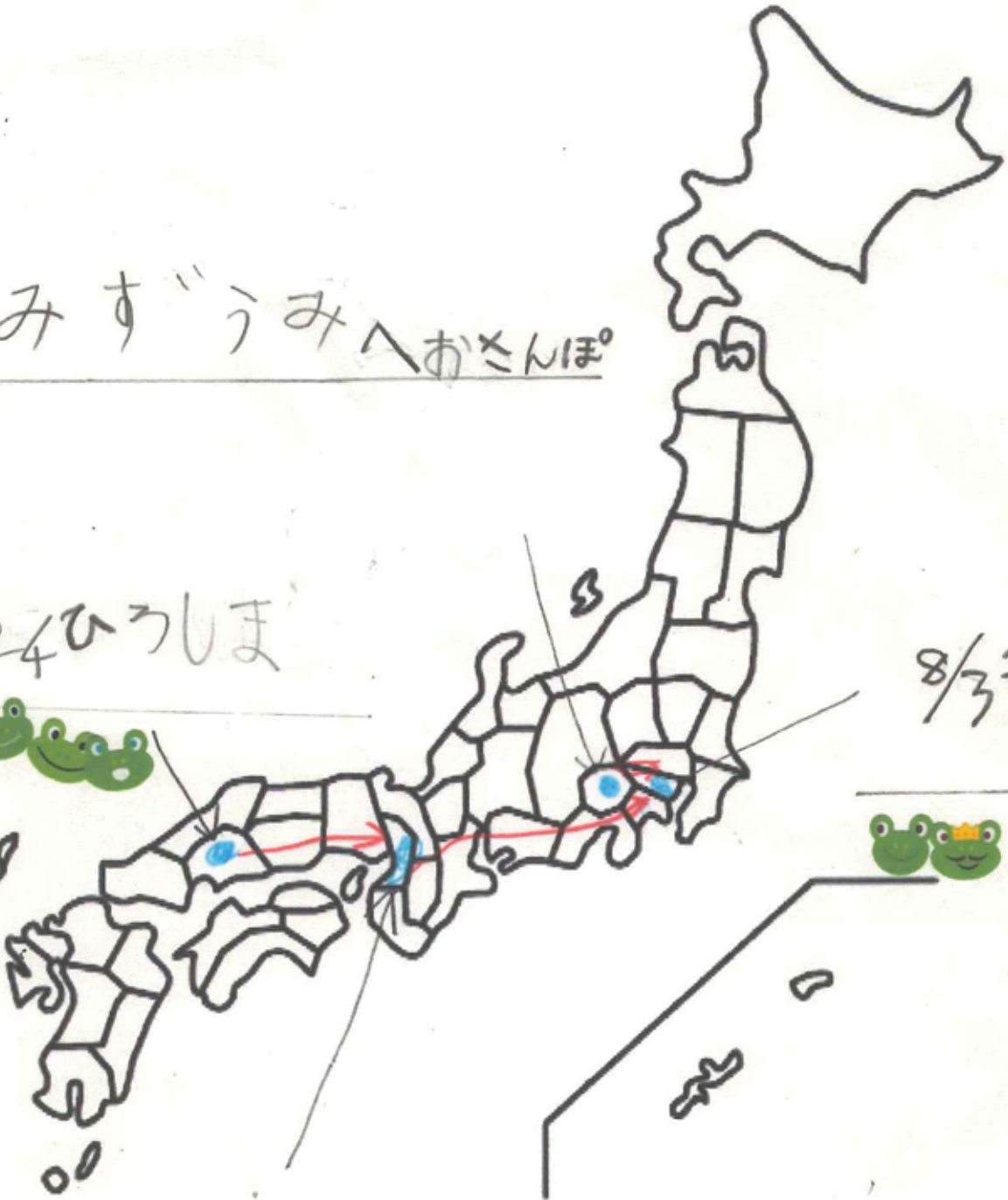


かえなひつきが  
いるところを  
かえなひつきが

けろちず" 

みず"うみへおさんぽ

1/24ひろしま



8/3〜いそがし



1/24〜おおさか



# かえなにつき

ど/らかえ る△うんちには  
ほそながかったの  
←これぐらい

めを ぱちしりしてた  
↑  
のみむときに



かえるはのどがないから



① 舌でキリギリスの仲間を捕まえた



② 目をつぶり目玉でエサを押し込む



③ 飲み込み終わった

## 目をつぶってエサを飲み込む

カエルにはのどがないのでエサを飲み込むことができません。そこで、食べるときに目をつぶり、目玉でエサを押し込むようにして胃の中に入れます。カエルの目は口の真上にありますから、目をつぶると、口の中のエサを上から目玉で押すことになるのです。大きなエサは何度も目をつぶって押し込みます。



かえなひつき 

8/16

はなな おしんごで おしんごで

てした。



# カエルのつき

8/22 カエルのつきのうがま いから  
めすたとおまうの



トウキョウダルマガエル

↑ 口元の左右にそれぞれ鳴のうがある



トノサマガエル

↑ 口元の左右にそれぞれ鳴のうがある



ヌマガエル

↑ あごの下に2つに分かれた鳴のうがある



ツチガエル

↑ あごの下に鳴のうが1つある

## なぜ大きな鳴き声が出せるのか

ニホンアマガエルの鳴き声は遠くからでも聞こえます。大人の親指くらいの大きさしかないのに、なぜ大きな鳴き声を出せるのでしょうか。鳴いているニホンアマガエルを見ると、あごの下の部分が風船のようにふくらんでいるのがわかります。これは鳴のうと呼ばれる袋で、ちょうど太鼓の皮の役目、つまり反響板の役目を果たす器官です。鳴のうの形はカエルの種類によってさまざまです。

## オスとメスの見分け方 ③ カエルの鳴のうの有無で見分ける

オスの婚嚙りゅうが小さくてオスとメスの区別がつかないときは、鳴のうの有無で見分けます。メスには鳴のうがありません。鳴かないとき、鳴のうはしぼんでいますが、そこだけ皮膚の色が黒っぽくなり、たるんだ状態になっています。



ニホンアマガエルのオス(左)のあごの下が黒くてたるんでいる

♂

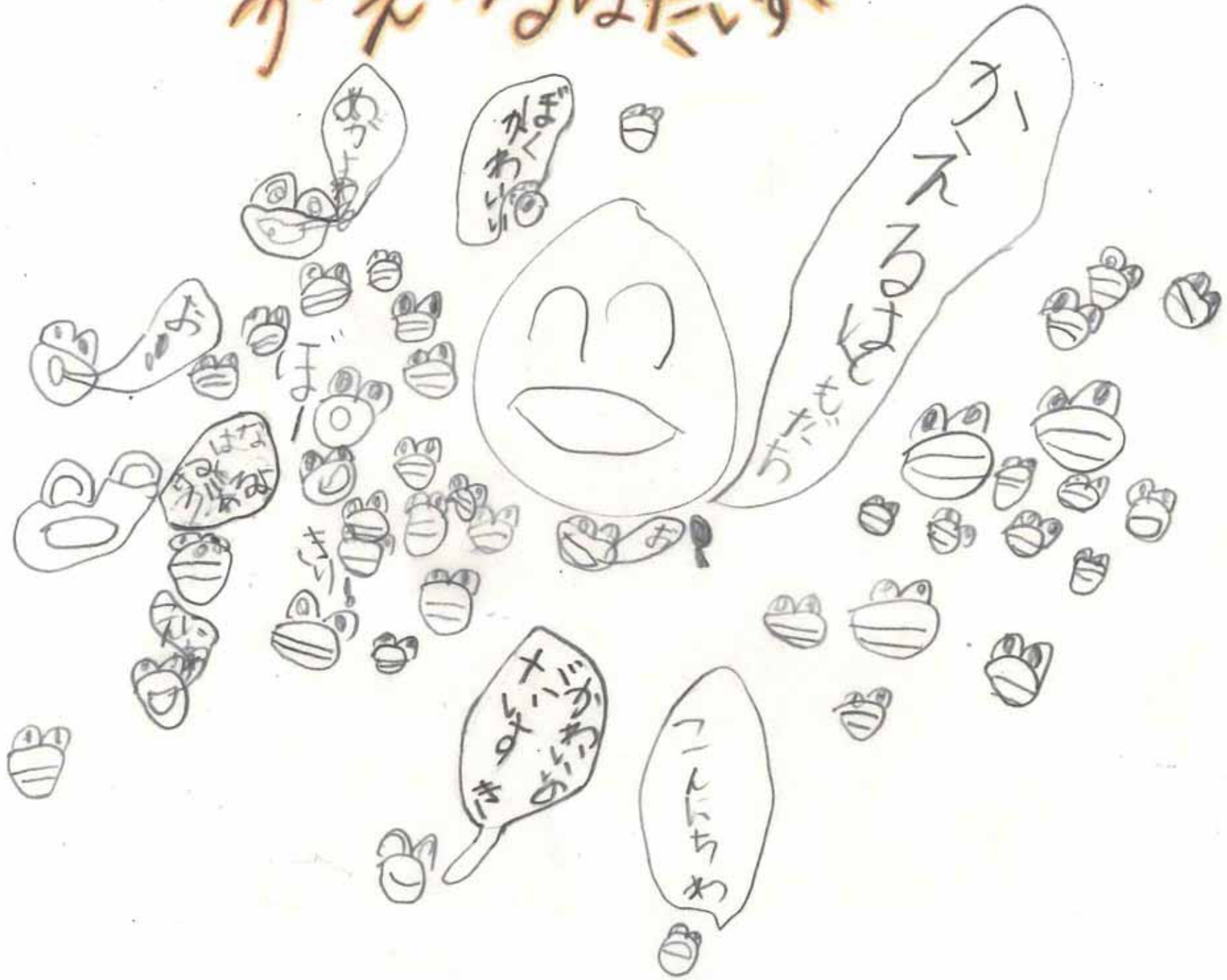
♀

♂

トウキョウダルマガエルのオス(左)の鳴のうは横についていて、鳴かないときは黒いひだのようになっている



# かえりのはたしき





↑  
しんかんせんではペットホ<sup>ッ</sup>ケルにはいる

は<sup>ッ</sup>な<sup>ッ</sup>な<sup>ッ</sup>む<sup>ッ</sup>し<sup>ッ</sup>を

た<sup>ッ</sup>べ<sup>ッ</sup>て<sup>ッ</sup>い<sup>ッ</sup>る<sup>ッ</sup>と<sup>ッ</sup>こ<sup>ッ</sup>ろ





へおおきないし、ようかんのはいすみ、  
かめのはんぎようかんはいつている。



カイルス〜ツ

たかくし〜る